

7月の輸出はアジア向けを中心に低調

7月は、アジア向け輸出が振るわず、日本の輸出全体も低調。アジア域内での景気減速を受けた最終需要の鈍化が、円安による数量押し上げ効果を打ち消している模様。一方、輸入は底堅く推移し、4～6月期に急縮小した貿易赤字は、7～9月期に再び拡大する見込み。

7月輸出は前年比では二桁増加も、4～6月期対比で見れば低調

財務省が公表した2013年7月の貿易統計によると、輸出額（名目輸出）は前年比12.2%（6月7.4%）と5ヶ月連続で増加し、かつ増加幅も2010年12月以来の水準を記録した。しかし、財務省試算の季節調整値によれば前月比1.8%（6月0.9%）と8ヶ月ぶりに減少、当社試算の実質ベース季節調整値では4.0%（6月2.7%）と大幅に減少している。季節調整値の7月水準を4～6月期平均と比較すると、名目値で0.2%（4～6月期前期比4.5%）、実質値では2.0%（4～6月期1.8%）といずれも下回っており、7～9月期の輸出動向は低調なスタートを切ったと評価せざるを得ない。なお、7月は円安進行（名目実効ベースで2.0%の減価）により、輸出物価が前月比1.2%（6月2.7%）上昇した。

アジア向け輸出が低迷

仕向け地別に見ると、アジア向けが対中国、対ASEAN、対NIEsを問わず、総じて低調に推移しており、同地域の景気減速の影響が窺われる。また、米国向けも2013年前半に大きく伸びた反動もあり、7月は減少した。7月単月の輸出低調をもって、輸出の先行きに過度に悲観的となる必要はない。ただ、円安による輸出数量（実質輸出）押し上げ効果が作用している下での低調は、新興国を中心とした景気減速が最終需要の鈍化を通じて、日本の輸出を圧迫する可能性を示唆しており、今後の動向に注意する必要がある。

輸入は増勢が強まる

7月の輸入額（名目輸入）は前年比19.6%（6月11.8%）と3ヶ月連続の二桁増加を示した。季節調整値でも前月比2.7%（6月1.5%）と増加したが、当社試算の実質ベースでは1.9%と、6月に4.2%急増した反動もあって減少した。季節調整値の7月水準を4～6月期平均と比較すると、名目は3.1%、実質は1.0%上回っており、4～6月期平均を下回った輸出とは対照的に、均してみれば、輸入は増勢を強めつつあると言え

名目輸出入の推移（兆円、季調値）



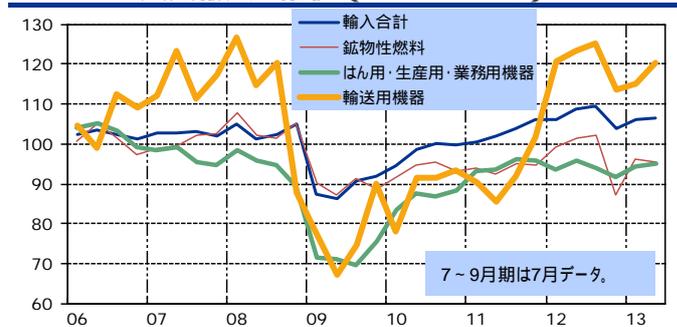
（出所）財務省

実質輸出入の推移（兆円、季調値、2010年基準）



（出所）財務省、日本銀行

実質輸入の推移（2005=100）



（出所）財務省、日本銀行

るだろう。品目別には、自動車関連やはん用・生産用・業務用機器の輸入が、7月は好調だった。今後については、円高による割高感が抑制効果を発揮するものの、消費税率引き上げ前の駆け込み需要などが作用し、輸入は増加基調が2013年後半に強まる可能性が高い。

7～9月期に貿易赤字は再拡大か

7月の貿易収支は原系列で1兆240億円となり、6月の1,823億円から赤字幅が大きく拡大した。貿易統計は、6月に輸出額の増加から黒字方向（赤字縮小）に振れる季節性があるが、季節調整値で見ても6月6,632億円が7月は9,440億円と2月以来の水準まで赤字が拡大している。上述した輸出の低迷と輸入の増勢により、7月は赤字額が膨らんだ。貿易赤字は1～3月期2兆6,689億円が4～6月期に2兆2,007億円へ急縮小したが、7～9月期は輸入の増勢等により再び赤字額が膨らむ可能性が高い。赤字額が、縮小へ向かうのは10～12月期以降となろう。

アジア向けは総じて低調

7月の輸出を当社試算の実質輸出により、仕向け地別に見ると、上述のとおり、アジア向けが前月比6.7%（6月3.1%）と大きく落ち込んだ（輸出全体に対する寄与度3.7%Pt）。米国向けも7月は6.9%（6月6.3%）と減少している（寄与度1.3%Pt）。EU向けは6月から横ばいだった（寄与度0.1%Pt）。

アジア向けでは、化学製品やはん用・生産用・業務用機器（資本財が主力）、電気機器などを中心にASEAN向けが前月比10.7%（6月3.2%）と2ヶ月ぶりに減少、中国向けも5.3%（6月4.4%）と3ヶ月ぶりに減少した。また、NIEs向けは電気機器と輸送用機器が低迷し、6.6%（6月0.8%）と2ヶ月連続の減少である。ASEAN向け、中国向け、NIEs向けのいずれも、7月水準が4～6月期平均を下回っており、総じて低調だったと言える。品目別に見ても、増勢が明確だったのは、中国向けの食料品に限られる。アジア域内での最終需要鈍化が、日本の輸出に悪影響を及ぼしていると考えられる。

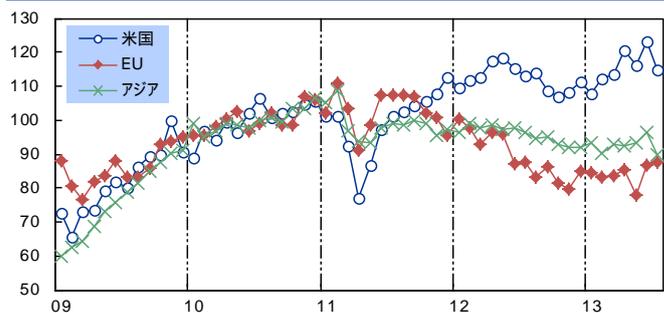
米国向けは一時的な落ち込みか

米国向けは4～6月期に前期比7.7%と高い伸びを示した後、7月は前月比6.9%（7月の4～6月期対比4.3%）と減少した。主力の輸送用機器が5.9%（6月11.1%）と減少したほか、資本財関連も低調だった。但し、米国での日本車販売は輸入車も含め好調であり、7月の輸出減少は船積み待ちなど一時的な動きと考えられる。米国経済は底堅さを増しているため、日本からの輸出も堅調推移が見込まれる。

EU向けは横ばい

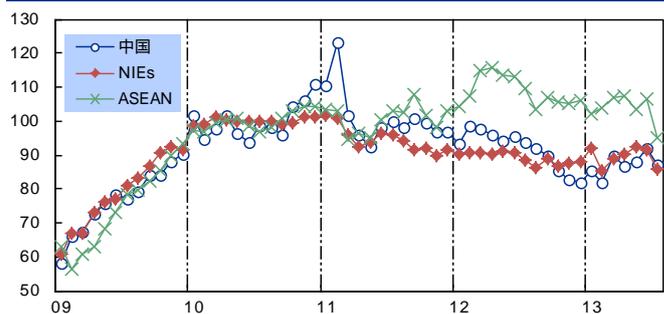
EU向けは6月前月比11.4%の高い伸びを示した後、7月に0.8%と同水準を維持した。はん用・生産用・業務用機器が6月6.6%、7月6.3%と2ヶ月連続で増加し、全体を下支えしている。EU向けが、このまま持ち直しに向かえば、日本の輸出にとってプラス材料である。

地域別実質輸出の推移（2010年=100）



（出所）財務省、日本銀行

対アジア実質輸出の推移（2010年=100）



（出所）財務省、日本銀行